

## (第15回) 下町散策 ～日本橋川・神田川クルーズ～

大変嬉しい事に絶好の日和に恵まれた5月17日、3年前の葛飾・柴又散策以来の38名という多くの会員の方々が日本橋たもとの船着き場に集合、クルーズ船は11時定刻に出発しました。まず周遊コースですが日本橋を後楽園方面に向け上って行き、神田川に至ります。これを右折、東方向に進み柳橋付近で隅田川に合流、右折し永代橋の手前を日本橋川に入り出発地に帰着する約90分の周回コースです。

この間、40以上もの橋、鉄橋の下をくぐり、ガイドさんのそれぞれの橋の名前の由来、コースから見える景色等の説明を聞きながらクルーズ船は進んで行きました。

その中からいくつか興味深い場所、話を紹介させていただきますと、まずは**日本橋**、最初に架けられたのは木



製で1603年(慶長8年)、現在の石橋は20代目で1911年(明治44年)に架け替えられたもの、従って関東大震災、東京大空襲の惨事を潜り抜けて今なお健在という事になります。次は一つ橋付近の左側に見える石垣、江戸城築城時のまま残っており、工事に関わった大名家の刻印も残っていました。この石垣は東京オリンピックの前の首都高速の橋脚を作る時、一旦取り崩し、完成後再度元通りに組み直して今があるそうです。更には**JR中央線外濠橋**、大正7年架設され関東大震災を耐え抜いた



強固な橋桁の中央部に旧国鉄のレリーフが残っており鉄道マニアの人気となっているそうです。**常盤橋**

は1877年(明治10年)にかけ替えられた日本橋川に架かる最古の石橋でしたが、8年前の東日本大震災にはさすがに耐えられず現在解体修復工事中です。

神田川は井の頭公園に端を発する川ですが、クルーズ船が通る部分は江戸時代初期に江戸城防衛と洪水対策

の為に開削されたもので大変な難工事であったそうです。お茶の水の**聖橋**付

近の渓谷も興味深い場所でした。橋手前の右岸に沿って御茶ノ水駅があり、アーチ型の橋を見上げながら



通過すると総武線と丸の内線が川を跨ぐ光景が目に入って来



ます。更に万世橋、和泉橋、美倉橋等いずれも昭和初めに架け替えられた橋を潜り抜けると隅田川に出ました。後方にスカイツリーが見え、川幅が広く開放感に浸るひと



時が楽しめました。こうして江戸から東京の今まで400有余年の営みの跡をそこここに見る事が出来たと感じながら日本橋のたもとに帰って来ました。



下船後、直ぐ近くのレストランで昼食を楽しみました。昼食会の席上、宮本委員長より、第2事業委員会の自然観察と下町散策の行事は昨年までは3月と5月に実施していたが、今年からは、春と秋の実施に変更、従って次回は紅葉の時期に立川の昭和記念公園の散策を計画中であるとのお話が披露されました。今回以上の多くの参加者の皆様とお会い出来るのを楽しみにご報告を終わります。

(色川 史郎・記)